

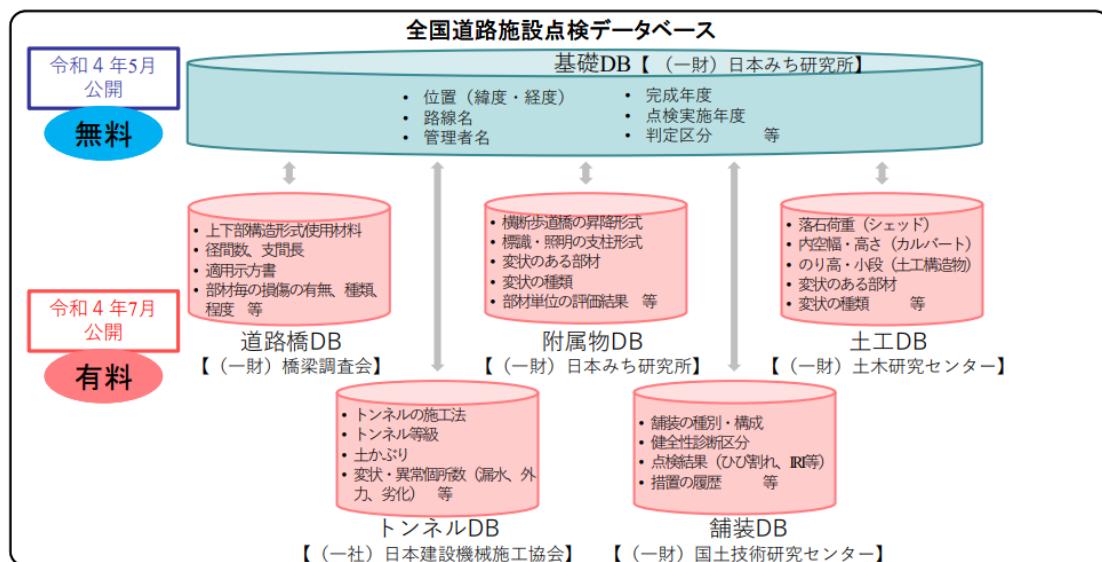


連載テーマのおわりに

斜面インフラマネジメント協会の活動項目の一つに、全国の斜面安定構造物・のり面構造物等のデータベースの構築支援がある。西日本17県の「国土強靭化」、「インフラ長寿命化」の動向を概観した目的の一つは、各県がどのようなデータを保持し、活用可能なデータベースを構築しているかを調べることでもあった。その意味で、大分県、長崎県の事例は大変有用であり、今後さらに情報を収集し勉強をしたいと考えている。

国土交通省では、令和元年に国土交通データプラットフォーム（仮称）整備計画を発表し（<https://www.mlit.go.jp/common/001291151.pdf>）、道路データプラットフォームの公開を令和7年から開始した（<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001888449.pdf>）。

国土交通省道路技術懇談会の資料によれば、全国道路施設点検データベースは、下記のように各データベースの管理運営団体を定めている。



出典：<https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/dourogijutsu/pdf11/02.pdf>

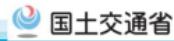
各データベースにおける利用可能なデータは、下記のように示されている。道路土工構造物点検要領で定めるおおむね 15m 以上の切土・盛土である特定道路土工構造物のデータベースについては、利用可能なデータは国土交通省管理の約 1.8 万ヶ所ののり高、代表勾配、小段数、主な構成施設、変状の種類等約 200 項目が含まれており、有料で閲覧可能となっている。





会長のコーナー

公開するデータ



詳細DB	施設	閲覧可能データ（5月無料公開範囲※1）		基礎 データ 約15項目 ^{※3}	閲覧・取得可能データ（7月有料公開範囲※1）	
		対象	データ項目		対象	データ項目
道路橋	橋梁	全道路管理者の約72万橋			全道路管理者の約72万橋	詳細データ約200項目：構造諸元（代表値）、点検結果、耐震補強状況等
					国交省管理の約3.8万橋	詳細データ計約1,400項目：上記に加え構造諸元（構造体毎）、構造・材料種別点検結果（要素・部材単位を含む）、点検・補強履歴等
トンネル	トンネル	全道路管理者の約1.1万本			全道路管理者の約1.1万本	詳細データ約100項目：施工法、変状・異常箇所数（漏水、外力、材質劣化）等
					国交省管理の0.2万本	詳細データ計約300項目：上記に加え諸元（トンネル等級、土かぶり等）、非常用施設諸元、診断結果等
附属物	横断歩道橋	全道路管理者の約1.2万施設			全道路管理者の約1.2万施設	詳細データ約130項目：構造諸元（代表値）、点検結果、橋下の管理者等
					国交省管理の約0.2万施設	詳細データ計約1,300項目：上記に加え構造諸元（構造・材料種別等）、変状のある部材、変状の種類、部材単位の評価結果等
舗装	舗装	名古屋国道事務所の約800km ^{※2}			全道路管理者の約1.7万施設	詳細データ約40項目：構造諸元（代表値）、点検結果、施設設置場所等
					国交省管理の約0.4万施設	詳細データ計約900項目：上記に加え構造諸元（標識表示内容等）、変状のある部材、変状の種類、部材単位の評価結果等
土工	シェッド	全道路管理者の約0.3万施設			国交省管理の約4.6万km ^{※2}	詳細データ約130項目：舗装の種別・構成、健全性診断区分、点検結果（ひび割れ、IRI等）、措置の履歴等
					全道路管理者の約0.3万施設	詳細データ約30項目：内空断面、上部・下部構造、点検結果の判定区分（代表値）、所見等
	大型カルバート	全道路管理者の約0.8万施設			国交省管理の約750施設	詳細データ計約200項目：上記に加え設計条件（落石荷重等）、変状のある部材、変状の種類等
					全道路管理者の約0.8万施設	詳細データ約30項目：内空施設、構造形式、使用材料、点検結果の判定区分（代表値）、所見等
特定土工	-	-			国交省管理の約2,500施設	詳細データ計約100項目：上記に加え内空幅・高さ、変状のある部材、変状の種類等
					国交省管理の約1.8万箇所	詳細データ約200項目：のり高・代表勾配・小段数、主な構成施設、変状の種類等

※1：7月の有料公開に伴い無料公開の対象を拡大

※2：上下線別の数字

※3：施設名、路線名、管理者区分、管理者名、管理事務所名、都道府県名、市町村名、緯度・経度、完成等年度、延長、幅員、点検実施年度、判定区分等

2

出典：

報道発表資料：道路施設の詳細な点検データの公開開始

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001490634.pdf>

上記のデータベースは国道に特化したものである。日本の道路延長は、下記のように県道、市町村道が圧倒的に多く、データベースの構築はようやく着手した段階であるといえよう。

道路種別	総延長※1	実延長※2
高速自動車国道	9,286.2 km	9,100.1 km
一般国道	66,416.1 km	56,110.8 km
都道府県道	142,942.2 km	129,826.8 km
市町村道	1,065,081.1 km	1,034,200.8 km
合計	1,283,725.6 km	1,229,238.5 km

出典：国土交通省 https://www.mlit.go.jp/road/soudan/soudan_10b_01.html

そのような現状を踏まえ、令和5年12月開催の道路技術懇談会では、「国、地方公共団体、高速道路会社等の点検等データを蓄積し、関連システムとAPIで連携するDBを整備する。費用は、国土交通省が負担」との議論がなされている。

斜面インフラマネジメント協会では、斜面インフラに適したデータベースの在り方を議論し、有用なデータベースの構築支援に貢献したいと考えている。



一般社団法人
斜面インフラマネジメント協会
Japan Association of Infrastructure Slope Management



連載テーマ「斜面構造物等の法的位置づけと国土の強靭化・インフラの長寿命化の動向」では、

- 第一話 インフラを取り巻く2つの動き
- 第二話 長寿命化の対象施設（国土交通省）
- 第三話 長寿命化の対象施設（農林水産省）
- 第四話 強靭化地域計画を読む（西日本17県）
- 第五話 公共施設等総合管理計画を読む（西日本17県）

の5つの話題について、10回に亘って斜面構造物・のり面構造物に関する法的位置づけおよび西日本各県の強靭化、長寿命化の考え方と計画を概観してきた。最後にこれから斜面インフラのマネジメントに不可欠な、耐用年数およびデータベース構築の動向について触れた。斜面インフラマネジメント協会の会員、および協会ホームページにアクセスしていただいた方に、何らかの参考となったとしたらうれしく思う。次回からは、連載テーマ2として「斜面の理解に向けて」を取り上げる予定である。引き続きお読みいただき、ご批判をいただきたいと思う。

バックナンバー

- No.9 2025年10月24日
- No.8 2025年10月10日
- No.7 2025年9月26日
- No.6 2025年9月12日
- No.5 2025年8月22日
- No.4 2025年8月 8日
- No.3 2025年7月25日
- No.2 2025年7月 4日
- No.1 2025年6月20日

